令和６（2024）年度　中部環境パートナーシップオフィス運営業務　年間報告書
■ 概 要 版 ■

※掲載したデータは全て 2025 年 3 月 18 日時点集計。

■ 第７期事業計画、令和６年度業務実施計画の作成

- 第7期事業計画、令和6年度業務実施計画等を作成し、EPO 中部ウェブサイト及び中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載・公開した。 掲載 URL：https://www.epo-chubu.jp/about/target

■ EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会の設置・開催

- 下記の通り、2回の会議を開催し、EPO 業務・ESD 業務について意見交換及び諮問を行った。

会議		開催日	主な議事等
EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会	第1回会議	5 月 29 日 オンライン	運営委員会設置要領について／令和6年度業務実施計画について／EPO・ESD 業務の事務局案について
	第2回会議	2 月 12 日 オンライン	令和6年度に実施した EPO・ESD 業務について

■ 基本業務

■ ホームページの更新及び維持管理

	URL	年間更新回数・計	年間アクセス数(ページビュー数) 単位：件					
			2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度	2019 年度
EPO 中部ウェブサイト	http://www.epo-chubu.jp	706 回	27, 216	32, 143	31, 134	32, 185	※ 501, 670	※ 860, 157
中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト	https://chubu.esdcenter.jp	325 回	7, 793	11, 947	10, 948	13, 575	13, 132	12, 251

※ 2020 年度に実施した EPO 中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元を Google アナリティクスに移行。（従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できる Google アナリティクス参照に変更した。）上表中の※印の数値は、サーバー会社のアクセスレポートによるデータである。

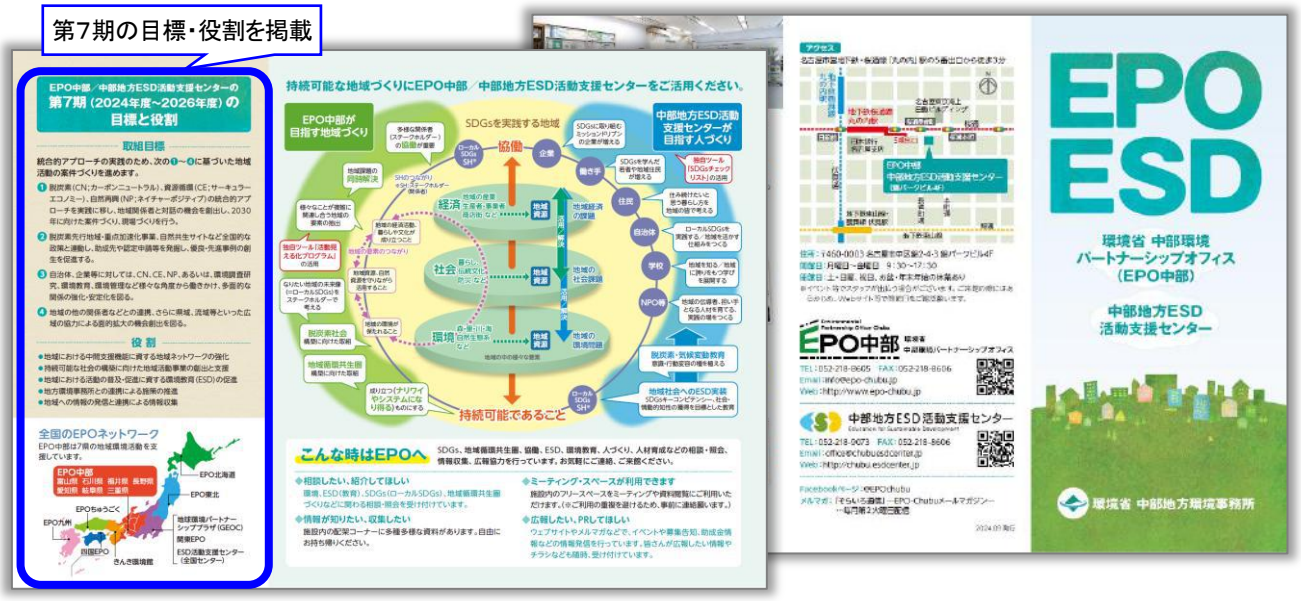
■ 収集・整理・蓄積した情報の発信

- 毎月１回メールマガジンを発行しており、配信済みのバックナンバーを EPO 中部ウェブサイトに掲載している。（https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine ）

	年間配信記事数・計	今年度配信したメルマガ記事数				
		冒頭部（EPO 関係記事等）	イベント関連	ツール・コンテンツ	助成金・表彰等	その他
2024 年度に配信したメルマガ（毎月第２火曜日発行）	460	29	220	42	140	29

■ リーフレットの発行・配布

- 第6期に作成した原稿をもとに、第7期の目標・役割を掲載する改訂を行ったリーフレットを作成し、主催イベントや打合せなどで、計・約 460 部を配布した。



■ 照会・相談対応（年間合計件数）

照会・相談対応						対話の体制の構築		照会・相談対応の延べ件数＋対話の体制の構築件数
相談に対し支援対応等を行った案件の事例件数※1	照会・相談対応等の延べ件数	来館件数 延べ件数※2	相談・照会、資料配架依頼等	会議利用	メール・電話による相談(広報依頼等) 延べ件数※2	会議・セミナー等地域活動への招聘	その他打合せや地域主体との意見交換等	
44	216	66	40	25	150	18	136	370

※１）事例件数：最初の連絡から対応終了までの（その間の連絡・打合せ等を含めた）案件ごとにカウントした数。
※２）延べ件数：同じ案件・用件であっても、来館、メール・電話等の接触回数等を個別にカウントした数。

■ 施設・設備の維持管理（年間施設利用件数）

業務実施日数	開館日数	来館者数	来館件数	メール・電話による問合せ件数
245 日	228 日	113 人	66 件	150 件

■ 協働取組の促進のための業務

■ 2024 年度に主催したイベント・会合等

催事名	開催地	設営	開催日	参加者	実施内容等
地域循環共生圏づくり支援セミナー（2024）	愛知県名古屋市	オンライン／アーカイブ	1 月 27 日	ライブ時点 27 人 継続配信	• 地域循環共生圏づくりとは…NPO 持続可能な社会をつくる元気ネット・鬼沢先生 • 地域経済循環分析・指標分析ツール…価値総研 • 登壇者によるトークセッション
地域循環共生圏フォーラム in 上市町 みんなで描く！ 〝つながる〟 〝めぐる〟上市町（全2回）	富山県上市町	リアル	12 月 7 日	28 人	• 富山県の協働コーディネーター2名による連携企画 • 第1回：ワークショップ編 • 第2回：発表＆ディスカッション編
		リアル	2 月 22 日	34 人	
協働コーディネーター意見交換会	愛知県名古屋市	リアル	8 月 28 日	9 人 クローズド会合	• 話題提供：中部事務所、（共生圏事業）丹南・長野、（EPO 共催共生圏フォーラム）ネクストステップ研究会 • 地域活動の課題感共有ディスカッション など

※出席者は事務局（中部地方環境事務所、EPO）を除いた人数（以下、同じ）。

地域循環共生圏づくり支援セミナー（2024年度：入門編）

- 1月27日にオンラインセミナー「地域循環共生圏づくり支援セミナー2024」を開催・配信。
- 前半プログラムは、NPO持続可能な社会をつくる元気ネット・鬼沢良子先生（地域循環共生圏事業有識者会議座長）の講演、環境省が公開している地域経済循環分析・指標分析ツールの紹介（価値総研）。後半プログラムは、前半講師と④活動評価手法検討WKGメンバーによるトークセッションを実施。
- ライブ配信での参加者は、zoom参加・YouTube自由視聴合わせて27人。
- 動画はアーカイブ公開中（https://www.epo-chubu.jp/epo-news/27663.html）、さらに後半「トークセッション」は冊子にし、取組主体に活用いただく"ツール"として公開予定。
- 2024年度は<地域循環共生圏づくり入門編(仮)>と位置づけており、次年度以降は下記コンセプトのセミナー展開を想定。
  - 2025年度：中間支援に焦点をあてた中級編（仮）
  - 2026年度：総括編（仮）

4

地域循環共生圏フォーラムin上市町（全２回）

- 富山県上市町で、12月7日に第1回、2月22日に第2回「地域循環共生圏フォーラムin上市町」を開催。
- 企画・運営に、富山県の協働コーディネーターであるPECとやま・堺氏と、(株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ・茶木氏が協力。
- 第1回はワークショップ編として、堺氏によるファシリテーションでローカルSDGs事業のアイデア出しを実施。上市町の地域づくり会合「ハッピー上市会」を中心とする参加者28人が参加。
- 第2回の発表編には34人が参加。第1回で提案されたローカルSDGsアイデアを実際の参加者が発表した。

4班／4テーマにわかれて地域をつなぐローカルSDGsのアイデアをディスカッション
←画像はハーブティ班の発表内容

5

協働コーディネーター意見交換会

- 8月28日に、EPO中部・協働コーディネーター6名（及び、オブザーバーとしてセブンイレブン財団2名）が出席して意見交換会を開催。
- 近況報告のほか、それぞれの地域活動の取組状況と課題を共有したうえで、地域循環共生圏づくりに取り組むうえでの地域側の課題感、中間支援の必要性、難しさ等について意見・情報交換を行うことができた。

	プログラム	時間	協働コーディネーターにお願いしたいこと
	13:20～16:20頃（約180分）意見交換会		
1	自己紹介と近況報告 長野県NPOセンター・吉田さんのご紹介	40分（3-5分×8人）	●【全員】自己紹介、活動の近況報告など ・配布、映写したい資料がありましたら、8/23頃までにEPOへデータを送付願います。人数分の印刷をEPOで行います。 ・配布したい印刷物がある場合は、20部をご持参ください。
2	《話題提供1》中部地方環境事務所からの情報提供・共有等	15分	・第六次環境基本計画、地域循環共生圏づくり事業の新しい枠組み など
3	《話題提供2》協働コーディネーターから 地域循環共生圏事業、EPO連携事業の紹介	25分（5分×5人）	●【三田村さん】地域循環共生圏事業（昨年度PF事業、今年度事業）による取組紹介 ●【吉田さん】地域循環共生圏事業（今年度選定事業）による取組紹介 ●【寺田さん】昨年度EPO共催・地域循環共生圏づくりフォーラム、「令和の里海づくり」モデル事業による取組の紹介 ●【堺さん・茶木さん】地域循環共生圏「食」フォーラムの企画 など
4	《話題提供3》EPO中部から	10分	・EPO中部主催イベントのお知らせ、活動評価検討 など
	休憩	10分	
5	上記1～4への質問タイム及び意見交換	80分（※残り時間で）	地域活動での課題感、地域循環共生圏づくり、中間支援団体（中間支援機能）のあり方について など

終了後、引き続き交流タイム／その間に事務局は後片付け等行い（17時施錠厳守）、16:45頃には懇親会会場へ移動

6

参考）協働コーディネーター意見交換会で提示された主な意見等

地域循環共生圏づくりと中間支援
- 地域循環共生圏づくりにおける中間支援の重要性を本会合で再確認できた。中間支援主体の育成に向けた取組が必要とされている。
- 中間支援者／コーディネーターの活動は収益確保が難しく、自身も事業を展開しなくてはならないのが実情である。
- 地域づくりの中間支援は、住民の幸せ度を上げることを目指し、共感を形にする必要がある。

放置竹林の活用（※放置竹林の整備・活用等に取り組むコーディネーターが複数名いる）
- 地元産業の活性化には、地元資源の活用が重要である。
- 特に、竹は、持続可能な資源であり、プラスチックの代替品として有望であることから、竹の利用促進を図ることで、地元産業の活性化にも寄与する可能性を有しているのでは。

地域（活動）における課題等
- 地域活動や環境活動においても、経済性を考慮したソーシャルビジネス化が重要となっており、その勉強会等をEPOで開催してほしい。
- 地方では、就労の場不足等の問題と共に、交通手段・二次交通の問題が地域活性化の大きな障害となっている。また、地域の少子高齢化対策には移住政策と共に、地域住民が住み続けたいと思えるような、地域の活力向上策の両展開が必要である。

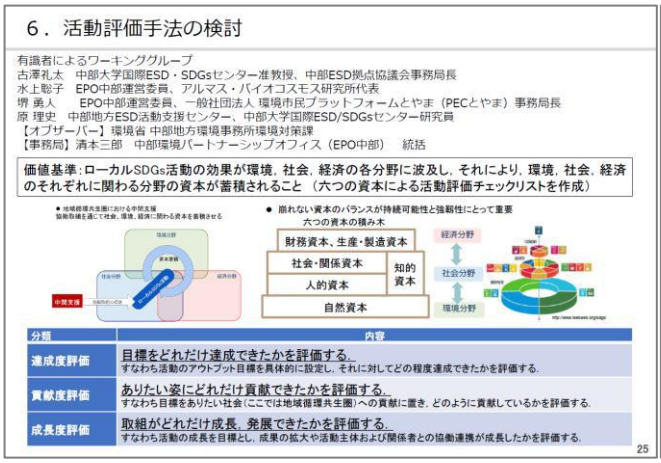
そのほか
- 協働コーディネーターを新たに育成する必要がある。

11

■ 地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック（活動評価手法の検討）

- 活動評価手法検討ワーキングを3回実施し、地域循環共生圏づくりの活動評価のあり方について検討を行った。

催事名	開催地	設営	開催日	出席者	実施内容等
活動評価手法検討ワーキング（全3回）	富山県富山市	リアル	6 月 5 日	委員3名 クローズド会合	• 第 6 期評価手法実績共有、第 7 期検討計画策定
	EPO 中部（愛知県名古屋市）	リアル	9 月 18 日		• 評価実績を活用した事例検討（2 事例）
	福井県坂井市	リアル	11 月 12 日		• 事例フィードバックの検討と課題抽出



- 活動評価検討ワーキングの検討結果として「活動評価チェックリスト」を作成し、富山県の協働コーディネーターの取組2件で試行し、そのアウトプットをフィードバックした。

里山の駅つるぎの味蔵の純国産メンマプロジェクト

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト（試行）　作成 250221

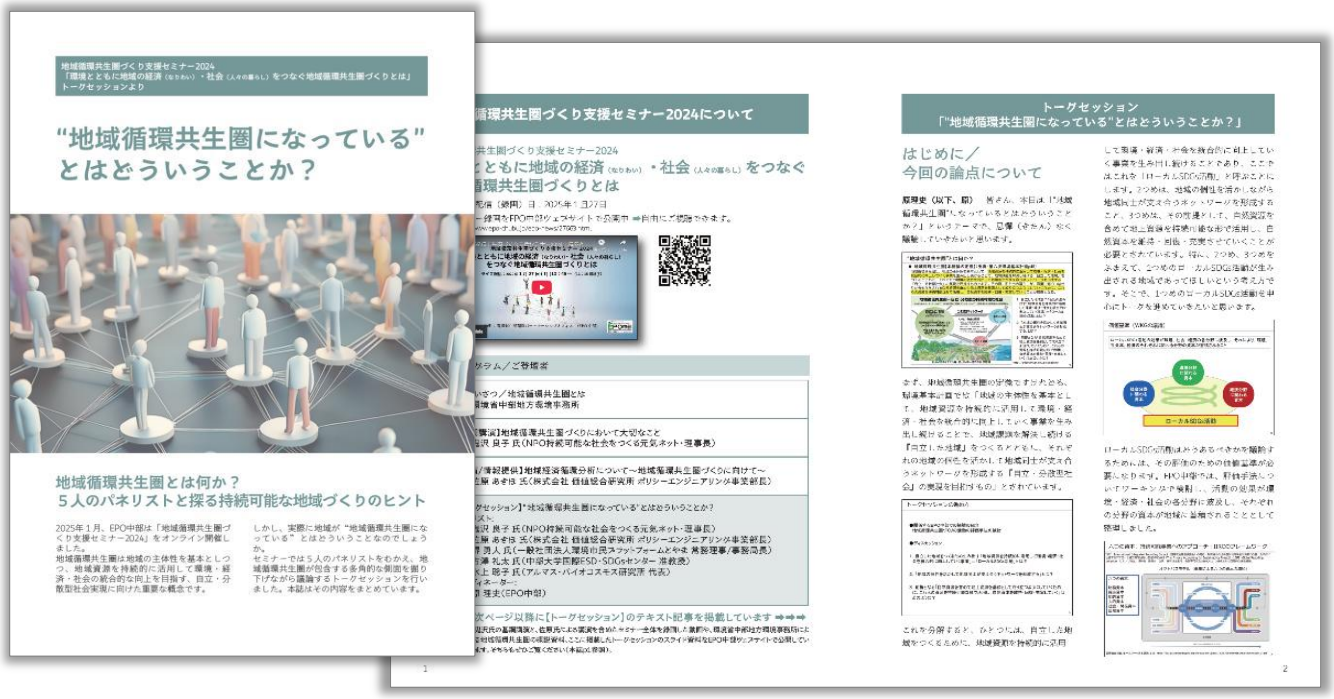
テーマ	富山県上市町　里山の駅つるぎの味蔵の純国産メンマプロジェクト	概要	竹林整備で発生した伸びたタケノコを活用したメンマの製造販売	
活動状況	放置竹林という地域課題への対応が可視化されることで関係者への説得力が増し、持続的に活動が進んでいる。純国産メンマのストーリー化とブランディング化により販売は順調で活動は拡大傾向にある。			
六つの資本	評価項目		チェック	チェックの判断理由
1財務資本（地域循環 財務資本）地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか		○	里山の駅つるぎの味蔵の重要商品として地域外資を獲得
	●地域への投資になっているか			
	その他（地域所得の増加に貢献している）		○	事業を通じて、地域で携わる従業員等の所得に貢献している
2製造資本（地域循環 生産・製造資本）地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか			
	●資源循環を目指しているか		○	地域の竹林からの資源を有効活用している
	●再生可能エネルギーを使おうとしているか			
	●防災・減災に役に立つか		○	竹林整備で山林の保全が図られる
	その他（　　）			
3知的資本（地域共生 知的資本）：地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	●様々な場面での教育を進めようとしているか		○	伐採体験やメンマ製造見学など学校教育や社会教育のフィールドとして機能している。
	●住民自治を取り入れようとしているか			
	●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか		○	「国産」メンマの伝統文化を維持継承している
	●高等知見の導入をしようとしているか		○	地域外の事例を参考に試行錯誤で製造法知見を蓄積してきている。
	●ICT 活用を進めようとしているか		○	オンライン販売を実施している
	その他（　　）			
4人的資本（地域共生 人的資本）：地域の多様な人々が共生できている	●主体的・意欲的な人がいるか		○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員が増加している
	●愛着・誇り・責任感のある人がいるか		○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員が増加している
	●包摂社会を目指しているか			
	その他（　　）			
5社会関係資本（地域共生 社会関係資本）：地域の繋がり・コミュニティづくりにつながっているか	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか		○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員の交流が生まれている
	●相互信頼を醸成しようとしているか		○	タケノコ取りやメンマ製造に積極的に関わる地域の人、従業員の交流が生まれている 地域課題解決の方向を可視化することで、関係者の納得が得られている
	●公正さに重きをおいているか			
	●共助を取り入れようとしているか			
	その他（　　）			
6自然資本（地域循環共生 自然資本）：地域の自然・生物多様性が守られているか	●生物多様性を守ろうとしているか		○	竹林整備で山林の保全が図られる
	●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか			
	●脱炭素を進めようとしているか			
	●自然資源の保全活用を進めようとしているか		○	地域の竹林からの資源を有効活用している
	●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか			
	その他（　　）			
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の課題解決の貢献し 6 つの資本すべてについて増加させる機能を果たしている。プロジェクトとして地域循環共生圏構築に貢献していると評価できる。			

メグスリノキのお茶、九宝茶の開発、販売

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト（試行）　作成 250224

テーマ	富山県上市町 メグスリノキのお茶、九宝茶の開発、販売	概要	大岩山日石寺で祈禱目に伝統的に振る舞われるメグスリノキのお茶を健康茶を地元産品として商品化、販売	
活動状況	商品開発とホテル・土産物店等の販路の確保に成功し、ストーリー化、ブランディング化による事業が持続的に行われている。当初もくろんでいた地元産原料による製造については困難が伴い断念。また事業への関係者の巻込みは十分ではなく、一企業の製造販売事業として活動。			
六つの資本	評価項目		チェック	チェックの判断理由
1財務資本（地域循環 財務資本）地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか		○	富山市上市町に係る製造販売企業の売り上げとして地元掲載に貢献
	●地域への投資になっているか			
	その他（地域所得の増加に貢献している）		△	製造販売を地域外の依存する割合が高く、十分な貢献になっていない
2製造資本（地域循環 生産・製造資本）地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか		△	当初のもくろみと異なり地域外の原料に依存している
	●資源循環を目指しているか		△	当初のもくろみと異なり地域外の原料に依存している
	●再生可能エネルギーを使おうとしているか			
	●防災・減災に役に立つか			
	その他（　　）			
3知的資本（地域共生 知的資本）：地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	●様々な場面での教育を進めようとしているか			
	●住民自治を取り入れようとしているか			
	●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか			
	●高等知見の導入をしようとしているか			
	●ICT 活用を進めようとしているか		○	オンライン販売を実施している
	その他（　　）			
4人的資本（地域共生 人的資本）：地域の多様な人々が共生できている	●主体的・意欲的な人がいるか			
	●愛着・誇り・責任感のある人がいるか			
	●包摂社会を目指しているか			
	その他（　　）			
5社会関係資本（地域共生 社会関係資本）：地域の繋がり・コミュニティづくりにつながっているか	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか			
	●相互信頼を醸成しようとしているか		△	当初のもくろみである、関係者の巻き込みを断念した。
	●公正さに重きをおいているか			
	●共助を取り入れようとしているか			
	その他（　　）			
6自然資本（地域循環共生 自然資本）：地域の自然・生物多様性が守られているか	●生物多様性を守ろうとしているか			
	●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか			
	●脱炭素を進めようとしているか			
	●自然資源の保全活用を進めようとしているか		△	当初もくろんだ地域資源の製造を断念
	●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか			
	その他（　　）			
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の財務資本増加には貢献しているものの、当初のもくろみから離れ地域外の製造資本を用いており、人的資本、社会資本、自然資本の貢献も見られない。ローカル SDGs 活動としては不十分と評価される。地域課題への対応との関連性を可視化できず、関係者の巻込みがうまくいかなかったとの当事者見解が重要な要因と考えられる。			

- ワーキングの有識者3名が「地域循環共生圏づくり支援セミナー」のトークセッションに登壇し、「“地域循環共生圏になっている”とはどういうことか」をテーマにディスカッションした記事をまとめた冊子を作成し、EPO 中部ウェブサイトに公開した。 掲載 URL: https://www.epo-chubu.jp/epo-news/27663.html



■ 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

■ 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

- 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に選定された3地域・6団体への支援として、事業着手にあたってのヒアリング実施と、ヒアリング結果をもとにした支援計画シートの作成、各団体が主催するステークホルダーミーティングの実施支援などを行った。
- 10 月に中部ブロックの中間共有会を EPO 中部主催で開催し、中部の参加団体（計6団体）、卒業団体（1団体）による取組状況等の報告会を行った。
- この事業の卒業団体の一つ「おわせ SEA モデル協議会」（尾鷲市政策調整課）を対象にしたフォローアップ調査を 12 月に実施し、その内容をとりまとめたヒアリング結果シートを作成し、全国事務局へ提出した。

催事名		開催地	設営	開催日	参加者	実施内容等
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業	キックオフ会合	愛知県名古屋市	ハイブリッド	6 月 26 日	19 人 クローズド会合	• 地域循環共生圏事業の「活動団体」を対象にした中部ブロックの活動計画の共有等
	中間共有会	長野県長野市	リアル	10 月 23-24 日	25 人 クローズド会合	• 地域循環共生圏事業の「活動団体」を対象にした活動状況等の中間報告会＆エクスカーション

■ 身近な自然資本活用に関する意見交換会の開催

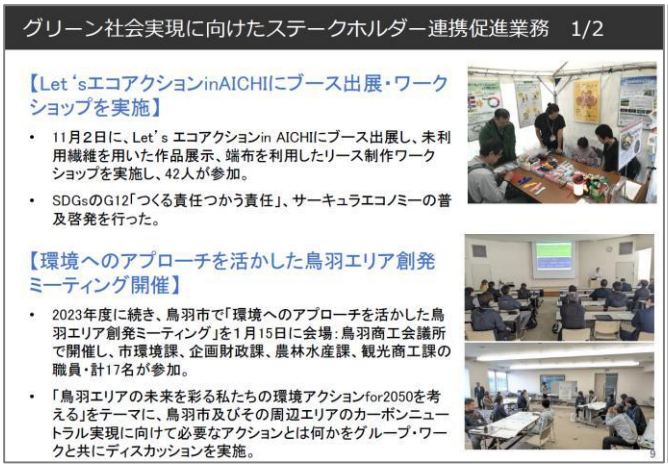
● 中部地方環境事務所が企画した次の催事を EPO 中部が運営・開催協力した。

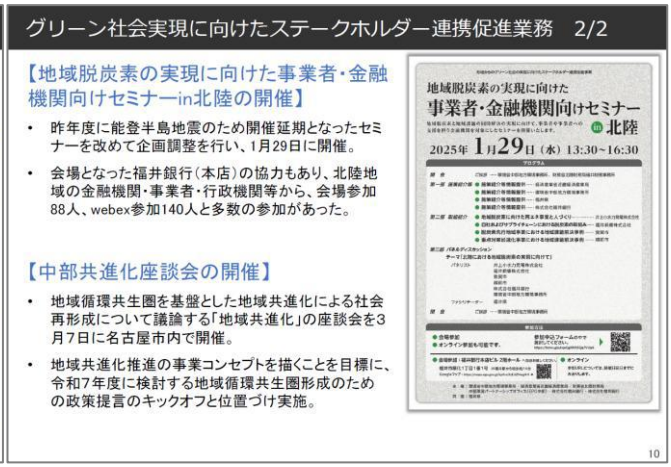
催事名	開催地	設営	時期	参加等	登壇者・実施内容等
SDGs AICHI EXPO 2024 出展ブース運営（3日間）、中部事務所主催ステージ企画協力（1日間）	愛知県 常滑市	出展	10 月 10–12 日	— （86 品売上）	• WoW キツネザルさんによるステージイベント、自然共生サイト等生物多様性保全の取組紹介 • ブース出展：生物多様性配慮商品6種（EPO 仕入れ等）の販売、中部事務所提供ポスター掲示、着ぐるみ（ポジー）実施　など
白山エリアの交流人口増加を考えるシンポジウム	石川県 野々市市	リアル	2 月 9 日	41 人	• 有識者によるインタープリテーションの概説、事例紹介 • 地元活動主体によるインタープリテーションの取組紹介 • 登壇者・関係者によるパネルディスカッション

■ グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業

● 中部地方環境事務所が企画した次の催事を EPO 中部が運営・開催協力した。

催事名	開催地	設営	時期	参加等	登壇者・実施内容等
Let’s エコアクション in AICHI の中部事務所出展ブースの運営	愛知県 名古屋市	出展	11 月 2 日	WS参加 42 人	協力：一般社団法人リデザインプロジェクト ブース出展：端布によるリース作成ワークショップを実施、関連作品・活動紹介パネル、資源循環関連パネルの展示　等
環境へのアプローチを活かした鳥羽エリア創発ミーティング	三重県 鳥羽市	リアル	1 月 15 日	17 人 クローズド会合	取組発表：22世紀奈佐の浜プロジェクト、鳥羽市のブルーカーボン（藻場再生）の取組 グループディスカッション：鳥羽エリアにおける 2050 年に向けた環境アクションのアイデアを考える
地域脱炭素の実現に向けた事業者・金融機関向けセミナーin 北陸	福井県 福井市	ハイブリッド	1 月 29 日	会場 88 人 webex140	主催：環境省中部地方環境事務所、経済産業省近畿経済産業局、財務省北陸財務局、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）、株式会社福井銀行、株式会社福邦銀行、共催：福井県
中部共進化座談会	愛知県 名古屋市	リアル	3 月 7 日	8 人 クローズド会合	外部有識者 8 名とともに、地域循環共生圏を基盤とした地域共進化について議論する座談会を実施

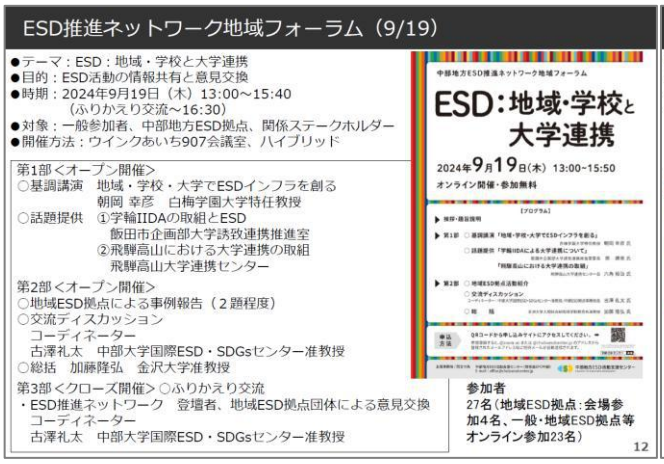




■ 中部地方 ESD 活動支援センター業務

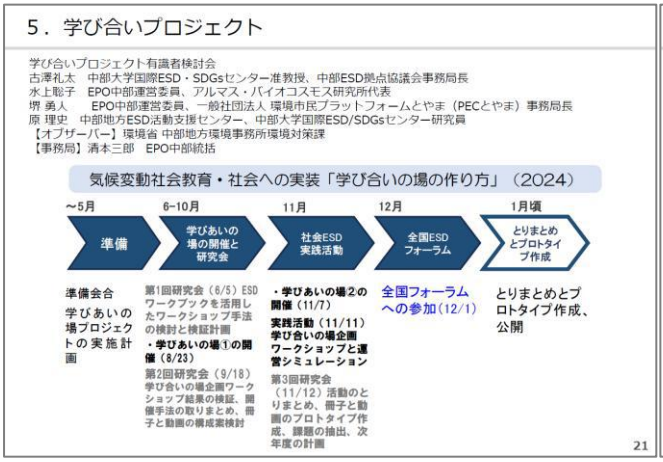
■ 中部地方 ESD 活動支援センター主催イベント／会合

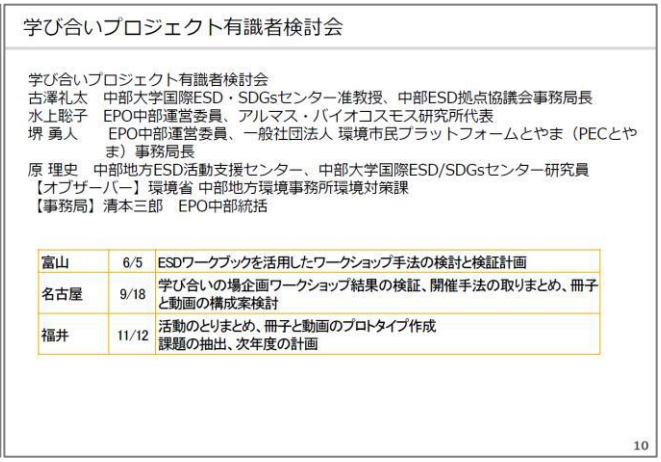
催事名	開催地	設営	時期	参加者	内容
中部地方 ESD 推進ネットワーク地域フォーラム	名古屋	ハイブリッド	9 月 19 日	27 人（会場 4、zoom23）	• 第 7 期共通テーマ：社会と学校の ESD ネットワーク • 2024 年度テーマ「ESD：地域・学校と大学連携」 • 地域と学校、学校と学校の連携に関する話題提供とディスカッション
SDGs学生サミット	―	オンライン・配信	2 月 1 日	111 人（学生 23、関係者 14、当日視聴者 74）	• ユースに対する SDGs 活動交流を通じた ESD の場の設営 • 学生、生徒の取組発表、社会人の話題提供 • 交流ディスカッション
自然資産を活かした ESD ダイアログ	飛騨高山	リアル	11 月 22 日−23 日	32 人	• 第 7 期共通テーマ：山と水と人間と／2024 年度テーマ「飛騨高山からの ESD 発信」 • 1 日目 ESD ダイアログ：基調講演、取組発表、ディスカッション • 2 日目エクスカーション（飛騨エリアのジオ関連地域資源等の視察）



■ 多様な主体の連携促進、交流の機会の提供（学び合いプロジェクト）

- 中部エリアの学び合いプロジェクトとして、気候変動社会教育・社会への実装「学び合いの場の作り方」をテーマに、有識者検討会で企画検討を行った上で、学び合いの場（セミナー方式）計2回と、実践活動（1回）を実施した。





学び合いの場①学生向けワークショップ

開催　2024年8月23日(金)14:00～15:30(90分)
場所　愛知教育大学116サイエンスアクティビティルーム
目的　ESDワークブックを用いた「学び合いの場づくり」実施者研修用プログラムの試行
内容　大学ゼミと連携した学生向け、学び合いの場企画ワークショップ

○配役と役割：4人で構成
　A：出展当事者
　B：大学祭に行こうと思っている一般人
　C：大学祭の委員
　D：顧問の先生、司会と記録を担当
○シチュエーション
　SDGs社会教育のイベントの企画書を作成する。
○ディスカッションを元に企画書を作成する

参加者18名
（EPO・環境省除く出席者数）

11

学び合いの場②推進員向けワークショップ概要とテーマの設定

開催　：2024年11月7日（木）10:10～12:00 ウィンクあいち 1303会議室
気候変動教育における中間支援～学び合いの場づくり企画ワークショップ【学び合いの場②】
「環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター連携講座」（温セ中部ブロック合同検討会11月6～7日）
地域温暖化防止活動推進センター（温セ）と連携した温セ職員・推進員向け、学び合いの場企画ワークショップ
＜参加者＞
中部ブロック温暖化防止活動推進センター職員、推進員　25名

WS概要
【解説】ESDとしての「学び合いの場」づくりについて
【ディスカッション】企画づくりテーマ設定
【ディスカッション】学び合いの場の形式検討
【ワーク】学び合いの場の企画づくり
【ワーク】企画した学び合いの場についてのSDGsチェック
【ワーク】ペスソナワークショップによる企画のブラッシュアップ
【プレゼン】議論した内容を発表

【テーマ分野】
1. 食を巡るつながりから気候変動を考える【食】
2. 人の移動（交通）から気候変動を考える【交通】
3. 家のつくりや生活から気候変動を考える【家庭】
4. 流域地形と自然災害から気候変動を考える【防災】
5. 自然環境への影響から気候変動を考える【自然】

【テーマの例】
1. 食品ロスを抑えるためにできること
2. 公共交通を使おう！ワークショップ
3. ZEHの良さを知って住み替えを考えよう
4. 気候変動は地域の豪雨被害の原因か
5. 外来種が多くなっているのは気候変動の影響か

12

実践活動：福井県坂井市職員向けワークショップ概要

開催　：2024年11月11日（月）15:00～16:30 坂井市役所 3F大ホール
2024 ESD for SDGs実践セミナー「学び合いの場づくり」実務者研修
＜参加者＞（坂井市教職員 全39名、9チーム））市役所職員（14名3チーム）、コミュニティーセンター職員（17名4チーム）、中学校教員（8名2チーム）

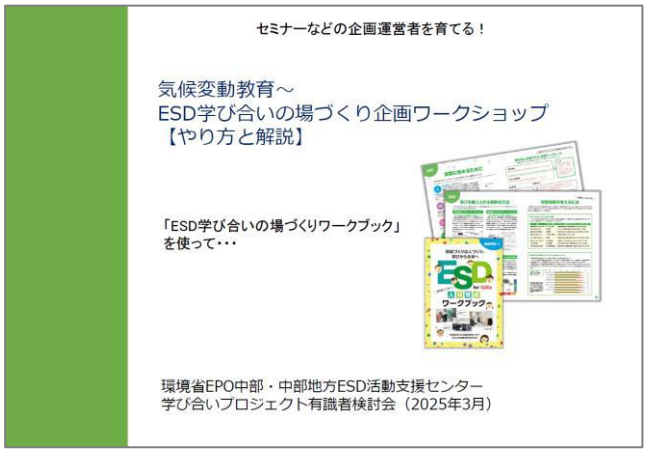
WS概要
【解説】ESD for SDGsとしての「学び合いの場」づくりについて
【ディスカッション】企画づくりテーマ設定
【ワーク】企画した学び合いの場についてのSDGsチェック
【ワーク】学び合いの場の企画づくり
【ワーク】ペスソナワークショップによる企画のブラッシュアップ
【プレゼン】議論した内容を発表

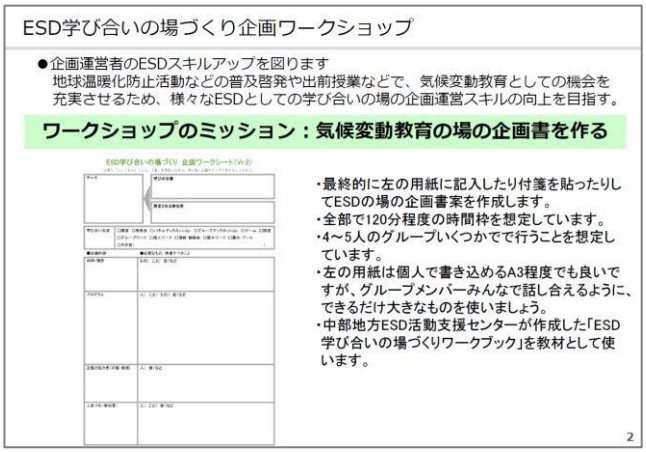
テーマ案
1誰もが自分らしさを活かして地域に貢献しながら自己実現していけるまちづくりについて話し合う場
2一人一人の人権と多様性を大切に、お互いを尊重できるまちづくりについて話し合う場
3坂井市で結婚したり、移住定住（Uターン、Iターンetc.）したくなるまちづくりについて話し合う場
4子どもや若者が地元愛やふるさと意識、well-beingを実感するまちづくりについて話し合う場
5環境面でさらに持続可能なまちになるためのライフスタイルについて話し合う場
6さらに安全安心でレジリエンスが高いまちになるための地域づくりについて話し合う場

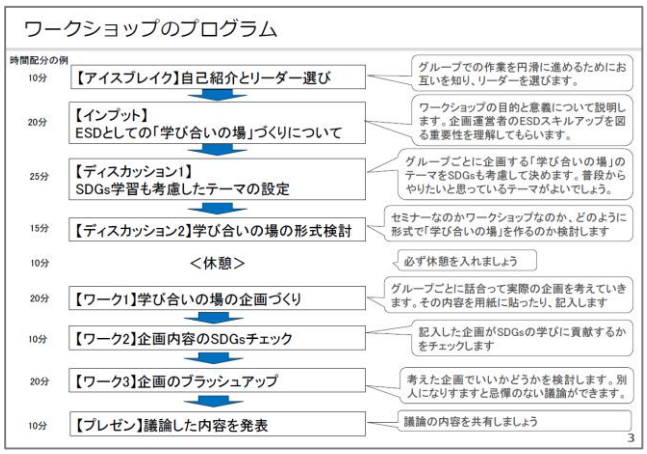
13

■ 冊子・動画の作成、公表・配布

- 有識者検討会のとりまとめ結果として、冊子（ワークショップ用ツール資料）と動画を作成し、学び合いの場①②、実践活動で活用したほか、ウェブサイトで公開するとともに関係者への配布等を行った。







■ 教育現場の実態把握と連携強化

● SDGs の取組と ESD 実践の専門家、推進を目指す教育現場関係者、中小企業経営者等にヒアリングを実施し、連携強化と情報収集を行った。

ヒアリング結果の一部抜粋	
大学 特任教授	○我が国の ESD 推進全般についての現状の課題と将来についての考え ▪ 新型コロナ感染症の影響で社会は劇的に変化した。例えば学校にはタブレット端末が一人一台整備された。大きな社会影響は教育現場にその転換を促進する効果があると言える。そうした意味では教育現場を ESD に向けて推進する重要な社会的影響が二つ考えられる。それは気候変動影響と南海トラフ地震の社会リスクの増大である。 ▪ これらのリスクによる地域の課題解決について議論し、気候変動や災害の教育を入口とした ESD の推進を図ることは、地域の持続可能性と強靭性を高めるためにも重要と考える。 ○環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターなど中間支援組織への期待 ▪ 中部地方は東海側と北陸側とでは地域の認識に大きな差があるかもしれない。気候変動の影響一つとっても東海地域は暑熱や台風、北陸側では大雪の影響が気になるだろう。また、都市部と中山間地では、まったく地域社会の課題が違う。こうした多様な地域特性を踏まえて ESD 支援を行うことが重要だと考えられる。 ▪ 特に東海地方の地域にとって、暑熱異常や、豪雨災害、南海トラフなど、中部地方 ESD 活動支援センターには防災など地域特性からのアプローチを期待している。
高校教諭 （農業科）	○今後の課題 ▪ 生徒たちの自分事化になりにくいことが問題と感じている。地球環境問題を深刻に捉えることが難しい。例えば畜産の CO2 排出量を取り上げたりしているが、だからといって CO2 排出量の多い牛肉パテのハンバーガーをやめて鶏肉の唐揚げにしようという話にはならない。 ▪ 様々な産業の関連性で循環することが本当に良いのかということについて、多面的に見て教育しているか疑問なところもある。
小学校 校長、教諭	○今後の課題 ▪ かつての ESD 研究成果が根付いているかとなると疑問が残る。どうすればその成果を継続定着できるかを問題意識として持っている。 ▪ ESD の研修会を行って先生方に気をつけてもらってはいるが、プログラムをなぞっている状態で魂が込められていないのではないか。実際にはプログラムや行事を行うのが精一杯な状態なので、いかに先生方の納得と理解が得られるかが問題となる。
印刷デザイン会社 代表取締役	○SDGs/ESD の取組の課題 ▪ あまり課題として深刻に考えていない。できる範囲で市外にも広げており、ニーズがあれば地域外でも手伝うことを考えたい。バランスが大事だと思う。 ▪ （お金ではなくて）豊かさとは何かということを考えながらの取組が大切だと思う。Wellbeing はその結果として評価されるべきものかもしれない。
不動産会社 代表取締役	○SDGs/ESD の取組の課題 ▪ 教育ということで言えば、その陰の部分を見るべき。例えばいじめとか、不登校とか、引きこもりとか。その一部でも社会にちゃんと参加したら重要なプレイヤーになるはず。 ○SDGs/ESD の取組の今後の期待 ▪ 弱者に対する愛がほしい。稼いでいる企業ほど SDGs の思想が足りない。正直者が馬鹿を見る構造になっている。SDGs が選ばれる社会になってほしい。そのためには消費者へのうまい発信の仕方が必要。一つ間違うと SDGs の偽善者（SDGs ウォッシュ）になる。

■ 代表的な行事後の行動変容の把握

● 主催イベント等で共催、企画協力等した主体を対象に、イベント等実施の成果となる参加者や関係者等のその後の行動変容について把握する簡易ヒアリング調査を計6件実施した。

業務	2024 年 12 月 7 日、2025 年 2 月 22 日開催・地域循環共生圏フォーラム in 上市町（全２回）
対象	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ　茶木氏　※EPO 中部・協働コーディネーター
内容・結果	• フォーラム開催後に、「自分にも何かできるのではないか」と考えて自社（店舗）を訪問してくださった参加者の方や、発表アイデアの具体化の相談などがあり、フォーラムによってこんなに人が動いてくれるのかと大変驚いた。 • フォーラムで出たアイデアを具体的に準備・企画するのは、地元の役割だと考えている。今後の活動として、フォーラムで発表した内容の実現に向けて進めていきたい。具体的には、地域の方々や若い世代を巻き込んだプラットフォームか、同好会や協議会のようなグループを立ち上げる必要があると考えている。まずは緩やかなつながりで、組織や会合を発足させた上でフォーラムの発表アイデアを実現する方法をメンバーと一緒に考えたい。特産品づくりなど、お手伝いできることがあれば協力していきたい。
業務	**2025 年 2 月 1 日開催・2024 年度 SDGs 学生サミット**
対象	都留文科大学准教授　田開先生（前　松本大学専任講師）
内容・結果	• エントリーした松本大学の田開ゼミの学生は前年度の同イベントで構想段階の活動発表を行った後、本イベントでの発表も目標にして活動してきた、という意味で非常に大きな学びと行動変容があったと考えている。 • 特に活動において行政やフィールドとした動物園との連携に齟齬が生じた段階で、中部地方 ESD 活動支援センターにオンライン相談ができたことは非常に大きな助けになったと考えられる。 • 本イベントでの活動発表に向けて活動をとりまとめ、報告書にも反映できるという点でも効果的で、オンラインプラットフォームとしてゼミ学生の ESD に大いに役立った。

（ほか4件／計6件のヒアリングを実施）

■ 関係主体との連携及び協働に関する業務

■ 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月1回頻度で実施し、9月以降はオンライン打合せを週1回程度行うなどして、業務の進捗状況、方向性などについて協議を計 25 回実施した。
- 日々の業務について、毎月、所定の様式の報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

■ 外部評価委員会への対応

- 自己評価シート、令和6年度業務実施報告資料を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

■ 環境白書を読む会への協力

- 中部地方環境事務所が主催・企画する令和6年版環境白書を読む会の広報及び開催運営を支援した。

■ 全国ユース環境活動発表大会への参画

- 全国ユース環境活動発表大会実行委員会（環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステイナビリティ高等研究所）が主催する「全国ユース環境活動発表大会」の中部大会の審査委員として、EPO 中部からは特定非営利活動法人長野県 NPO センター・事務局長の阿部今日子氏を推薦した。
- 12 月 22 日開催の中部大会には、EPO 中部スタッフもオブザーバー参加した。また、中部大会、全国大会の様子を EPO 中部ウェブサイトで紹介した

■ 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国及び地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等（オンライン含む）にはすべて出席した。
- 第2回全国 EPO 連絡会は、富山県富山市で開催し、会議後の視察エクスカーションなどの開催・運営を EPO 中部が担当した。エクスカーションについては、富山県の2名の協働コーディネーターと、運営委員の協力を得て、地域側の受け入れ等について協議・調整等を行った。

全国EPO連絡会@富山開催

- 10月１日・２日に開催された全国EPO連絡会の地方開催が、今年は中部開催となり、富山市で開催。
- 10月２日・３日にEPO中部が視察エクスカーションを企画することになり、運営委員・田辺氏、協働コーディネーター・堺氏、茶木氏の協力を得て、富山県上市町の食材の弁当提供、富山市内散策「ブラとやま」、南砺市の井波地区とエコビレッジ構想関係施設の見学を実施。

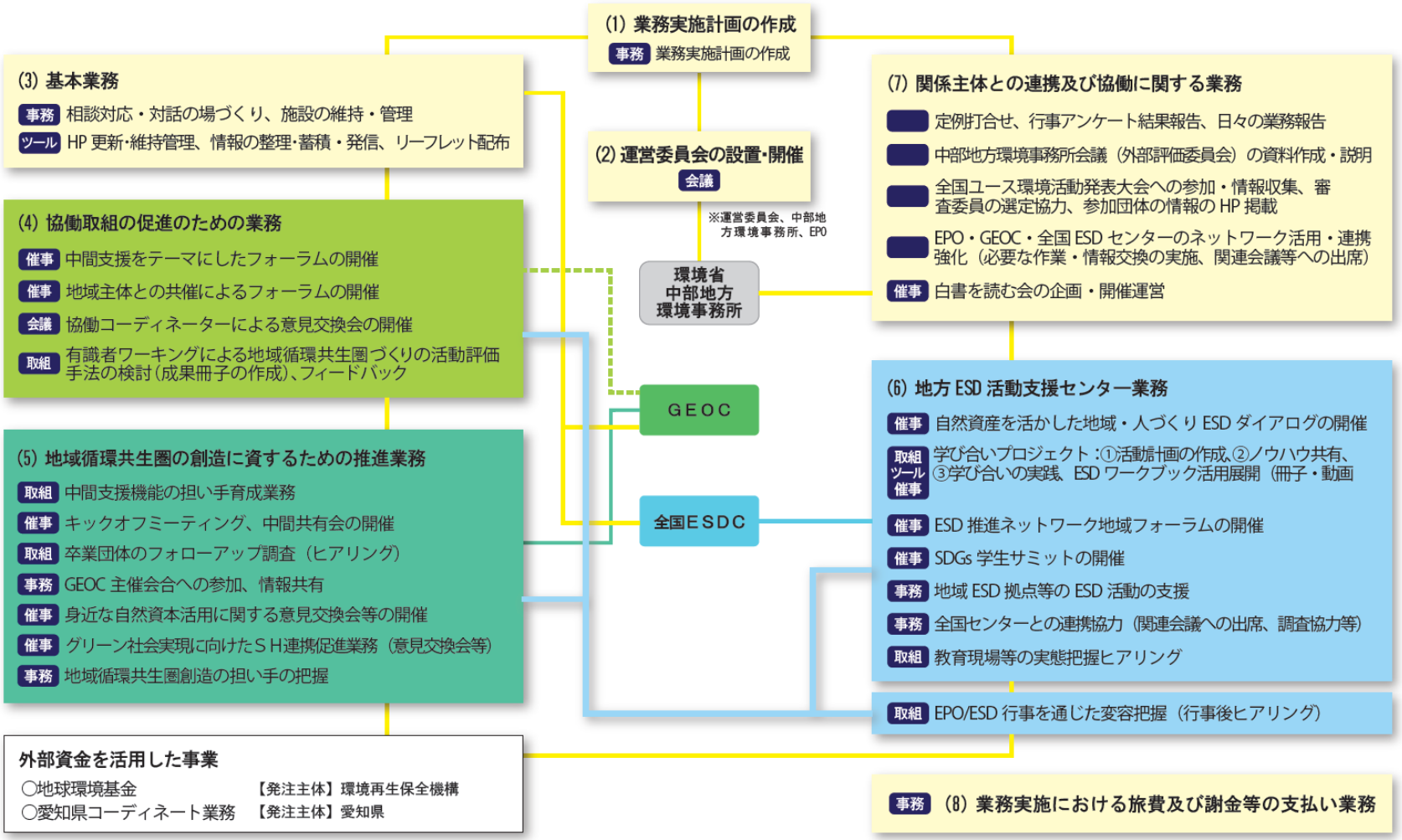
行程		時間・集合場所等	実施内容・訪問先等 ※一部変更の可能性あります。
10月1日（火）	懇親会	19:00～21:00 富桜 富山駅前店	富山駅南口から徒歩約5分／富山県民会館から徒歩約5分 お店のwebサイト：https://tomisakura-toyamaekimae.owst.jp/map
10月2日（水）	昼食	12:15～13:15 富山県民会館701号室	**㈱ティー・ツリー・コミュニケーションズの未利用材活用等の取組紹介＆富山県上市町（かみいちまち）の食材によるオリジナル弁当で昼食**
	①エクスカーション	13:30 富山県民会館701号室 集合・出発 15:30頃 富山市役所展望塔 （富山県民会館の東隣） で解散	NPOまちづくりスポットとやまによる「ブラとやま」 （2時間）徒歩散策 【立寄りスポット】 ①富山城址、②総曲輪レガートスクエア、③平和通り、④松川と助作川（サンシップとやま、微高地の自然堤防）、⑤常夜灯、⑥富山市役所展望塔 ※⑥富山市役所展望塔で、ガイドさんによる案内後15:30頃に流れ解散の予定です。 講師…富山大都市デザイン学部 安江健一先生 案内…立山黒部ジオパーク協会、まちづくりスポット、富山市（②説明）
10月3日（木）	②エクスカーション	09:00 富山駅 北口駅前広場 集合・出発 （バスで移動） ※富山駅～南砺市間は、車で片道約1時間弱 16:00頃 富山駅 着・解散	**（一社）環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）による「南砺市の井波地区のまちづくり＆エコビレッジ構想」視察** （約7時間）バス移動 【訪問先】※次頁に行程表あり <午前>南砺市井波地区 …木彫りのまち井波の持続可能なまちづくりの視察 <午後>南砺市エコビレッジ構想の関連施設の見学 昼食：合掌ゲストハウス かずら 案内…南砺市エコビレッジ推進課、NPO法人イナミライデザイン など

14

令和６（2024）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書＜概要版＞

発行：環境省中部地方環境事務所
作成：中部環境パートナーシップオフィス
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）
（2025 年 3 月）

【参考】2024 年度業務一覧

中部環境パートナーシップオフィス運営業務
令和６年度（2024 年度）業務一覧

第7期3カ年度の目標 2030 年を見据え中部地方のローカル SDGs 達成に向け地域循環共生圏に資する地域環境活動の面的拡大を加速化させます。
今年度目標 既存のネットワークを活かし地域のニーズに対応した事例モデルを作成するとともに取組の組織や事例などの優良資産を発掘、把握、整理します。